



“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No. 27 〈確認不足〉

タイトル：状況把握が甘いのでは？

【事例】

作業員及び監督者は、ケーブル復旧工事のために、フリーアクセスフロアを開放しながらケーブル確認作業を行っていました。作業員及び監督者は、ケーブルの確認に集中し、周りの状況把握がおろそかになっていました。このため、作業員は「立入禁止」の標識を見落とし、立入禁止区域に立入ってしまいました。監督者は、作業員の立入りに気づき注意したときには、「時すでに遅し」でした。

【ヒューマンファクターの視点から】

人は正確な作業をしようとする時、そのことに「注意」を払わなければなりません。しかし、作業に「注意」が集中することによって、その作業に対しては、エラーやミスがないように十分に意識することが出来ますが、それ以外には意識が向かない「一点集中」に陥る可能性があり、他に作業を妨げる要因があったとしても気づきにくく、エラーに繋がる可能性があります。

作業現場には様々なリスク要因が潜在しており、それを見落とすとトラブルに発展しかねません。作業を実施する場合は、作業環境に十分注意を払う必要があります。しかし、その全てを一人で行うには限界があるので、作業を安全に実施する為にも、以下についての配慮が重要となります。

- ・作業に取り掛かる前に、作業関係者全員で周囲の状況を十分に確認し、リスク要因を認識しておくことが必要です。
- ・一人だと「一点集中」に陥る可能性があるため、作業全体を見渡す監視員の下で作業を行いましょう。
- ・フェンスの設置や警報や表示等で注意喚起するシステムの導入も検討しましょう。

事前に現場の状況を十分把握し、安全を確認しつつ作業を遂行しましょう。

以 上